



飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。



ま	ち	の	話	題
い	ろ	い	ろ	

8/1

畑 美味しい夏野菜を楽しむ でクッキング 自然の力や恵みを体感！

野菜の収穫体験や、クイズ、オリジナルの野菜バーガーづくりなどを通して自然の力や恵みを体感する「青空教室」が、古川町畦畑の農園「ソヤ畦畑」(森本悠己さん経営)で開催され、午前・午後合わせて、約75人の親子連れが参加しました。

収穫体験では、鈴のような形をした「鈴ピーマン」、半分白色の「半白胡瓜」など、珍しい野菜を親子で収穫しました。

オリジナル野菜バーガーづくりでは、ほうれん草が練りこまれたパンに飛騨牛コロツケをはさみ、採れたての野菜を何種類も選んで素揚げにしてトッピング。初めて口にした野菜もおいしそうに食べていました。

参加者は「食のつながりや大切さをたくさん語っていただき、勉強になった」「子どもがナス嫌いだったが、おいしいと食べていた」と話していました。



8/1

ボランティアらが環境保全に汗流す

特レポ

オオバコなどの外来植物を駆除しようと、河合町の天生県立自然公園で環境保全活動が行われ、飛騨地域のボランティア9人と公園関係者の皆さんが散策道に繁茂するオオバコの除去に汗を流しました。

これは市観光協会と同公園協議会が10年以上にわたって続けている活動です。今回は天生湿原から林道に通じる緊急避難道で作業しました。

参加は2回目という古川町黒内の村澤俊樹さん・里香さん夫妻は「外来植物のを知り、美しい環境を残すのに懸命に働いている皆さんの活動に役立ちたくて参加しました」と、古川町上野から訪れた志津歳美さんは「天生はすばらしい所。地元の人たちの熱心なボランティア活動に感激して参加しました。ガイドの楽しいお話も聞けてよかったです」と話していました。



8/7

飛 台湾 新港郷の青年たちとのオンライン交流 騨市の高校生と

特レポ

飛騨市の友好都市・台湾新港郷の青年たちと古城高生による「オンライン交流」が市役所で行われました。選択授業で「国際理解探求」を専攻する同校1～3年生と、台湾の新港文教基金会のボランティアを務める高校生と大学生が参加しました。

最初はスクリーンを通して自己紹介を相手地域の言葉で行い、続いて事前に作成した資料を基に英語で「コロナウイルス」や「アジア人差別」など4つのテーマで意見交換しました。

参加者全員で記念撮影した後、大平未来さん(3年)が「オンラインは難しいですが、思った以上にコミュニケーションがとれて楽しかった。また会える日を楽しみにしています」とあいさつ。参加した田口菜里さん(2年)は「オンラインなので話がかみ合わなかったり、相手の表情が読み取れず話を伝えるのが難しかったです」と話していました。



8/10 箱 吉城高校で小学生対象のサイエンス教室 カメラで撮影したり、フラクタル図形など学ぶ

市内の小学5、6年生を対象に「吉城高校サイエンス教室」が開催されました。児童らに理科や数学に興味を持ってもらおうと毎年、教員志望の同校生徒が先生役となって開いています。

今年は小学生24人が参加。算数の授業ではフラクタル図形の基礎を分かりやすく学習。理科の授業では、カメラで写真を撮る原理や仕組み、光の性質などについて学んだ後、箱カメラを手作りして撮影を行いました。

「いろんな事を楽しく知ることができました。自分で作ることでより深く理解できました」と神岡小学校5年の蒔田実音さん。指導した理数科2年の中川奏和さんは「小学生の思い出に残るような教え方を心がけました。僕が言ったことに反応してくれたり、話しながら楽しそうにやってくれて良かった」と目を細めていました。



8/11 カ 飛騨市公民館講座でワークショップ カニのはく製づくりに挑戦!

古川郷土民芸会館で「飛騨市公民館講座～カニのはく製づくり」が行われ、市内の親子連れら10人が参加しました。

講師は魚のはく製専門の阿部信夫さん(古川町笹ヶ洞)です。楊枝でサワガニの甲らをはがし、水を張ったトレイの中できれいに洗った後、再び甲らをボンドで貼って発泡スチロールの板にまるで生きているかのように固定します。

サワガニは甲らが薄く、足も細いため、繊細な作業の繰り返しで慎重に作業をしないと壊れてしまいます。講師の阿部さんは一人ひとり、手元を注意深く見守りながら指導していました。

親子で参加した古川町若宮の山口大凱君(小学1年)は「洗っていたら壊れてしまい、すごく難しかった」、父親の隆幸さんも「集中力が要りますね」と真剣な表情で手を貸していました。



8/13 新 飛騨市新型コロナまちなか簡易検査センターを開設 新型コロナ感染拡大防止体制を強化

市では、新型コロナウイルス感染拡大防止体制を強化するため、迅速に結果が出る抗原定性検査キットを活用した、「まちなか簡易検査センター」を、古川町若宮の若宮駐車場に開設しました。市民や飛騨地域以外から来た無症状の方が対象で、無料で検査を受けることができます。(9月30日まで)

検査には、国の薬事承認を得た抗原定性検査キットを使用。問診票の記入と本人確認後、看護師や保健師から検査の説明を受けます。車の中か、センター内の検査用ブースで自ら鼻の奥から検体を採取し、結果は15分程度で判明します。陽性または陽性疑いとなった場合は、保健所の指導の下、医療機関での再検査が必要です。

高山、下呂両市民と白川村民は対象外。事前に市公式ホームページから予約が必要で、開設日は月、水、金曜日です。





飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

8/20

第一線の音楽家が演奏を披露

第一線で活躍する一流の演奏家を招いて開く「真夏の夜のコンサート—金木博幸と素敵な仲間たち」(飛騨音楽の里主催)が古川町の飛騨市文化交流センターで開かれました。昨年は同コンサートの20周年記念でしたが、新型コロナの影響により延期され、今年は万全の感染対策を施して実施しました。

東京フィルハーモニー交響楽団首席チェロ奏者の金木博幸さんや日本センチュリー交響楽団首席客演コンサートマスターの荒井英治さんらが出演。市と縁の深い作曲家の故・武満徹さんが作曲した『波の盆』など7曲を熱演しました。来場者は、夏のひと時をクラシック音楽で優雅に過ごしました。

同コンサートが20周年を迎えたことを受けて金木さんは「皆様のご尽力とご協力とご理解が無ければここまで来ませんでした」と謝辞を述べ、コンサートが発展してきた経緯などを紹介しました。



8/21

新「立ち達磨」に幅2.5m、高さ1.5mのマスク

コロナ禍の終息を祈願しようと神岡町のまちづくり団体「T L S L 実行委員会」が、同町朝浦にある巨大な銅像「立ち達磨」にマスクを取り付けました。高さ8.9mもある立ち達磨に取り付けたのは幅2.5m、高さ1.5mにもなるマスクで、風雨にも耐えられるよう防火シートを用いています。

また、今回は「子どもたちにもまちづくりに関わってもらい、地元を好きになってもらいたい」との思いから神岡小学校に寄せ書きを呼びかけました。「コロナに負けるな!!」「コロナが明けたら…堂々と出かけるぞ!!」など、3~6年生児童170人分の願いやメッセージが書かれています。

実行委員長長の帰家圭吾さんは「イベントが中止になるなど、2年近くコロナの影響で思うような活動ができていません。少しでも良くなる方向に進むようお願いを込めました」と話していました。



8/27

飛騨市ふるさと学校給食 地元のおいしい食材を学校給食で味わう

特レポ

農家さんのこだわりや苦勞を知り、地元のおいしい食材を味わうことで故郷に誇りを持ってもらおうと、宮川小学校で「飛騨市ふるさと学校給食」が行われました。

この日の給食は、子どもたちが待ちに待ったスタミナ満点の「飛騨牛ステーキ」。この他、「ほうれん草と大豆のおかか和え」や「こも豆腐のすまし汁」、それに古川町増島町の(術牧成舎)のアイスクリームもありました。

全校児童8人は、給食に先立って宮川町戸谷の(株)サトウ畜産の佐藤悦史さんと市役所職員から、飛騨牛や地元で採れる農作物などの話を聞きました。

藤戸貴生君(2年)は「ステーキがおいしくてお代わりしました」、幅圭吾君(6年)は「脂ののっておいしかった。もっと食べたいな」と人気は上々でした。

